

# 第1回観光文化委員会



10月14日(金)広島市において、池田委員長他42名の委員出席のもと、第1回観光文化委員会を開催しました。

当日は、議事に先立ち、(公社)2025年日本国際博覧会協会の川村審議役からご講演をいただいた後、観光文化委員会の2022年度事業の実施状況報告および政府等への要望の方向性についての審議を行い、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要を紹介します。

## 〔講演要旨〕

### 「2025年大阪・関西万博における観光誘客に向けた取り組み」

(公社)2025年日本国際博覧会協会  
機運醸成局 地域・観光部 審議役  
川村 泰正 氏

#### ■大阪・関西万博は国家プロジェクト

「国際博覧会(万博)」は規模に応じて「登録博」と「認定博」の2種類に分けられるが、2025年の大阪・関西万博は5年に一度の大規模な「登録博」である。現在137か国の参加表明があり、世界中の国々が最新の技術を披露する場となる。(公社)2025年日本国際博覧会協会(以下、万博協会)のトップには経団連会長を据え、国も内閣総理大臣を本部長とする国際博覧会推進本部の設置や万博担当大臣の任命など、国家プロジェクトとして官民一体で万博の成功に向けて取り組んでいる。



#### ■2,820万人の来場を目指す

万博会場となる夢洲(ゆめしま)は、現在地盤強化のための工事を行っており、2023年度からパビリオン建設等が始まる予定。四方を海に囲まれたロケーションを活かし、会場の中心に海を見渡せる高さ12m、1周約2kmの世界最大級の木造遊歩道(リングスカイウォーク)を設置し、世界とのつながりを実感していただく。6か月の期間中、約2,820万人(うちインバウンド350万人)の来場者を目標としているが、会場自体はそれほど大きくないため、この数字を達成するには

期間中、恒常的に15万人/日に来場してもらえるような工夫が必要と考えている。

#### ■観光誘客に向け地域と連携

国家プロジェクトである万博は、大阪・関西だけのものではなく、いかにして他地域へ経済効果を波及させるかも重要なミッションである。万博に向け、全国各地と連携を強化し、「万博来場者の増加」と「全国各地の観光客増加」の好循環が生まれるよう、自治体・観光事業者、交通事業者が連携した取り組みを支援していく。万博協会としては、SDGsなどの万博のテーマに関わる地域の魅力を国内外に発信することで万博来場者の拡大を目指していく。各地域においては、万博来場者をターゲットとした、万博のテーマに関わる自然・文化などの地域資源を活用した魅力的な体験プログラムを含む周遊観光商品などを今から準備していただきたい。

#### ■来場者の特性に応じたプロモーションを実施

万博入場券の発売は2023年度から開始予定であり、その後、来場者が事前に来場日を予約する。そのタイミングで、日程の前後で中国地域を含む日本各地への周遊観光商品も同時に購入できるような仕組みにしたいと考えている。また、事前予約により、インバウンド来場者の来日日程や国籍、人数等のデータをあらかじめ把握できるため、来場者それぞれの特性に応じた効果的なプロモーションが打てると考えている。さらに、万博会場などの旅ナカでも観光プロモーション活動を実施し、観光予約ができるようにもしていきたい。

(担当:島末)